

# Ryuichi Rainer Suzuki

鈴木・ライナー・龍一  
チェロリサイタル

# cello recital

## プロフィール

鈴木 ライナー 龍一

ベルリンに生まれる。7歳よりヴァイオリン、10歳よりチェロを始める。

ミュンヘンでヤン ポラセック氏、ザグレブでダヴィッド グリゴリアン氏（ロストロポーヴィチの弟子）に師事。さらに英国王立音楽大学ソリストコースにてウィリアム プリース氏（ジャクリーヌ デュブレの先生）、ベルリン芸術大学にてヴォルフガング ベトヒャー氏に学び、ソリストディプロムを「最優秀」で取得、卒業する。

幼少の頃より親交のあったセルジュ チェリビダッケ氏にも師事し、音楽的に多大な影響を受ける。ブラームス国際コンクール優勝をはじめ、国際コンクールにおける入賞多数。

活動は多岐にわたり、室内楽ではライナー クスマウル、安永 徹、清水 直子、市野 あゆみ、アントン バラコフスキー、アンドラ ダルツィン各氏とグループを結成。ソリストとしては、ドイツ各地でリサイタルシリーズに招聘される他、数々のオーケストラと協演、好評を博す。

文化フェスティバルの開幕コンサートに出演した際には、「驚くべきテクニックと力強い音、そしてアメリカとボヘミアの音楽スタイルを調和させる事のできるすぐれた表現解釈によって、才能に恵まれたチェリスト鈴木ライナー龍一は「聴衆の心」を掴んだ。」(南ドイツ新聞)「文化フェスティバルにおける最大の聴き所は、やはりドヴォルジャークのチェロ協奏曲短調の演奏だった。そのヴィルトゥオーソの名は鈴木 ライナー 龍一という。彼はドヴォルジャークの憂愁に内在する、そのエネルギー溢れんばかりの魅力を、一滴も漏らす事なく表現した。我々はただそのチェロを聴くだけで、何の苦もなく音と響きの世界を得ることができる。卓越したテクニックと滑らかなアタック、そして才能をもって彼の楽器は涙を誘う。そして鈴木は、ドヴォルジャークの広大さと深遠さを併せ持つ作曲センスを見事に察知し、聴衆のみならずオーケストラまでも至上の音楽世界へと導いた。また、彼の弾くカザルス“鳥の歌”は、それまで聴いたことがないほど繊細であった。要するに、彼は楽器と作品に魂を込めたのだ。」(ミュンヘン メルクア) 等と、ドイツの新聞各紙が絶賛した。またロマン派以降のみならず、バロック時代の演奏スタイルにも精通していることから、バロックチェリストとしても定評がある。2000年よりハンブルク国立歌劇場、及びハンブルクフィルハーモニーの首席チェロ奏者を務める。

岡 里歌子 (オルガン)

愛知県出身。幼少よりピアノを習い、名古屋芸術大学器楽科ピアノコースへ進学。大学時代、学内の演奏会に多数出演、海外のピアノマスタークラスを受講するなど積極的に経験を高める。ピアノ講師の経験を経て2009年秋より渡独。ドイツ・ハンブルグ音楽院にて演奏コース、および芸術演奏コース卒業。イタリア、デンマーク、ドイツ各地、ハンガリーにてコンサート、マスタークラス修了選抜演奏会等にて演奏する。2011年、シューマンのピアノ協奏曲を指揮者の守山俊吾、ユースアカデミックシンフォニーオーケストラ INSO- Lviv と共演、2016年、ハンブルグ、エラールフェスティバルに出演する。

これまでにピアノを尾崎 なつみ、彦坂 智子、奥村 真、ガブリエル・ヴルフ、クリスティアーネ・ペーン、マティアス・ウェーバー、室内楽を鈴木・ライナー・龍一、マーラ・メトニック、チェンバロをアンケ・デンナート各氏に師事。マスタークラスにてミッシェル・ペロフ、ガボール・エッカート、ミハエル・ケラー、バラッシュ・ソコライ各氏に助言を受ける。現在はソロ、アンサンブル、伴奏ピアニスト、ピアノ講師として幅広く活動している。また、日独友好の為の演奏会の企画プロデュース、教会・学校・施設訪問コンサート等、意欲的に行っている。ドイツ・ハンブルグ在住。



鈴木・ライナー・龍一がとても才能豊かで、極めて熟達したチェリストであることを私はよく知っています。私は彼の音楽の端々に、大いなる才能を見受けることができました。私は彼のあらゆる努力を高く評価し、彼が大きな成功を得ることを信じています。

セルジュ・チェリビダッケ (Sergiu Celibidache 指揮者)